

クナール河増水、難民送還が再開 マルワリード II 予定通り進行 主幹排水路、全線で床面を完了

事務局のみなさん、後藤・村上先生、
お疲れさまです。

おかげで無事予定の工事が仕上がりつつあり、増水期の MII 堰も無事らしきことを確認しました。激闘の冬は過ぎましたが、洪水期に向けて護岸工事が急ピッチで進められています。

1) MII 関係

MIII 主幹水路；沈砂池まで送水可能で下段を終え、上段は急がず、主力を護岸と分水路造成に振り向けています。

護岸；2.5 km地点を工事中、水制は 1.5 km地点を追いかけています。間もなくしめきり堤と連続します。

沈砂池；基本的な造作は終了し、後片づけの段階です。

コーティ分水路；950m中約 500mまで仕上がり、工事先端のライニングは間もなく完了します。

2) ガンベリ排水路；1.8 km全線で床面（U字溝）設置を完了、側壁の練石積みは 200mを残すのみ、上段のふとん籠工は約 75%を終えました。

3) 難民キャンプについては、その後の観察で以下の通りです。

1. カチャラは交通・治安・収容力などで、キャンプとしては不適。カチャ

ラ村自身が多数の帰還難民で困っている。

2. ガンベリ沙漠に築かれているキャンプは、遊牧民（クーチー）の血縁だけで、ほぼ部族内の相互扶助だけで成り立っている。彼らの話では、現在 4,000 家族に膨れ上がり、4 月になってから数百家族が新たに加わった。ガンベリ農場から約 9.8 kmの道程、全く独自に運営され、自前の定期便でジャララバードと結ばれている。数はあてにならないが、かなり多いのは確か。夏期は気候が厳しいので、何らかの動きを迫られると思われる。

3. 政府・国際団体ともに、今のところ目立った動きがない。一般的に、難民側も政府を当てにできず、地縁血縁を頼りに、静かな動きが展開している。

4. PMSは、とくに「緊急支援」を掲げず、現事業に集中する。MIII 流域で、灌漑の仮工事を速やかに進めて帰農を促進、重機を減らして手作業を重視、できるだけ多くの村民が日当で潤うように配慮（現在約 250 名）。

以上の次第で、要するに現事業の継続です。

小生は 9 日の便で一時帰国し、共同調査発足に協力いたします。

定期報告はしばらくありません。今回は印象的な写真だけお送りします。

皆さん、お元気で。

2017年4月8日 記

ジャララバード市内の一般的な光景。交通渋滞
が日常化している。車両の60~70%以上がリ
キシャで、以前の静かな街並みを知る者には信
じられない光景。2017年4月5日





ミラーンのカマ橋付近。大きな街並みになっている。2017年4月3日

作業地のベラ村を下流側から望む。2015年に発生して大被害を出した分流は、昨年PMSの手で閉塞され、少しずつ乾燥してきている。村民たちが戻ってテント生活を営んでいる 2017年4月5日



遊牧の群と混在していたが、遊牧民は去り、村人が生活している。家を建て始めた者もある。MII
取水口から約 8km、かなりの努力を要する。2017年 4月 5日





B1 岩盤

MII取水口を下流から見る。既に夏日を思わせる暑さ。対岸はダラエヌール溪谷。ケシュマンド山脈の雪が薄い。春なのに、積乱雲が普通になってきた。2017年4月8日

M II 取水門を下流から見る。ケシュマンド山系の白雪が頼りない。2017年4月3日

ケシュマンド山系



水門の一つがカチャラ分水路に充てられる。2017年4月5日

本水路へ

カチャラ分水路へ



延びるコーティ分水路と排水路1の整備。2017年4月5日

コーティ分水路



護岸工事先端の3 km地点付近。このような浅い分流が幾重にも現れる。旧タラーン村の取水口があった場所。2017年4月6日



人海戦術。ダンプカー1台が20名、掘削機1台が40名分の日当に相当する。時と場合によっては人力もバカにならない。仕上げは綺麗だ。(動画あり) 2017年4月6日



昨年仕上げた分流閉塞のしめきり堤（取水口から約4 km地点）。水制は50m間隔。2.2 kmが既にあり、カチャラ村から下ってきた護岸線と間もなく連続する。連続すると、一気にベラ村まで作業地点を伸ばすことができる。2017年4月6日

石出し水制

